
幻想に咲いた夢の花 （後日談）

閑野 寅歩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想に咲いた夢の花（後日談）

【Nコード】

N17760

【作者名】

閑野 寅歩

【あらすじ】

「幻想に咲いた夢の花」の後日談です。本編を読んでない方にはちんぷんかんぷんですが、読んだ人が読んでも別になんの足しにもなりません。ただ、藍様が恋の力でスカウター飛ばしちゃいましたみたいなお話。おまけそのものです。すごく短い上になんのネタもありません。

（前書き）

注意 この小説は同作者の東方二次創作・森近霖之助×八雲藍のカップリング小説「幻想に咲いた夢の花」([↑http://ncode.syosetu.com/n16820/](http://ncode.syosetu.com/n16820/))の後日談、もといおまけとなっております。本編未読の方は先に本編を読まないという意味不明です。本編を読んだ人も、特に面白味もない内容になってますので。読んでも読まなくても本編の解釈に影響とかありません。そのことをご理解の上、どうぞ。

「ふーっ……」

妖怪の賢者と呼ばれる大妖怪・八雲 紫。

流石の彼女も、今ばかりは疲れていた。

幻想郷を守る結界がほとんど破損していると気づいたのが一月ほど前

藍に任せてあるから大丈夫だろうと思っていたのが、あれよあれよと、危うく取り返しのないところまで結界が壊れていったので、藍の怠慢を詰問し、自らも結界補修へ向かったのだった。

スキマを多用し、結界の壊れた部分をあちこち回り補修した。

とは言え、最近の藍の行動など全て把握していた彼女には。そうなることはいくらか予想済みであったのだが。

「それでもあまりにひどすぎたのよ」

いわゆる八雲邸の縁側に腰掛けながら、彼女はつぶやいた。

いつも帰って来ると側についてくる彼女の式の姿は、今は無い。

「でもあれはちょっと厳しかったかなー」

彼女がそう言うのには理由がある。

藍に結界の補修を命じた場所は、結界の破損度合もさることながら、その場所は「妖力を奪われる」構造になっている場所。いわば生命力を吸い取られるような仕組みになぜかになっている場所で、普通の妖怪ならば、いるだけで息絶えてしまうようなところであった。そこへ送り込んだのは、当然、命令を全うしなかった事に対する罰なのだ。

「自分だけ恋なんてしちゃってねえ、式のくせに」

……いくらか、言われぬ嫉妬も入っている。

「まあ、藍なら。なんとか二ヶ月くらいで帰ってくるかしら。少なくとも死ぬことはないわね」

「呼びましたか？」

「ひゃうつ！？」

己のすぐ後ろから声がしたので、流石の大妖怪も声を上げる。

一瞬、来客かと思った彼女だが。それは違うと気づいた。

そこへ在るべき姿が、そこにあった。

「紫様、八雲の藍、只今帰りました」

立派な九尾の尻尾に、見慣れた服。彼女に仕える式・八雲藍その人であった。

「藍…？え？あなたもう帰って来たの！？まだ一月しか経ってないわよ！？」

「いえ、一月『も』かかってしまいました。それと、今回の一件お騒がせして本当にすみませんでした」

紫は、開いた口が塞がらなかった。

あの結界を、一月で。

それは彼女でさえできるかどうかからぬ芸当であった。

「あの…紫様？」

おずおずと、藍が申し出た。

「少し、出かけたのですが…よろしいでしょうか？」

わずかにほほを染めながら、藍が申し出る。その瞬間、紫は藍がどこへ行くかなど、全て見通した。

「…ええ、いいわ。行つてきなさい」

「はいっ！ありがとうございます！」

ぱつと顔をほころばせた藍は、あっという間にどこかへと飛んで行った。

「……『行つてきます』くらい、言いなさいよ……」

後に残された紫は、一抹の虚しさと共に、つぶやいた。

「恋の力は、偉大だわ……」

目を細め、ちょっとだけ悔しそうに、つぶやくのだった。

いつも通りの香霖堂に、来客のベルが鳴った。
どこか、うれしそうな音色で。

（後書き）

（言い訳）本編の方で、最後につく予定でしたが。直前でボツになったラスト部分です。

投稿した後、あのままだとなんとなくキレが悪気がしたので、後日談という形でのせました。でも今の状態の本編の終わり方も嫌いじゃなかったので、こんなふうになってます。

おまけどころかボツ原稿の再利用とか、本当にすみませんでした。でもどっちの方がいいのかいまだ悩んでるので、ご容赦ください…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1776o/>

幻想に咲いた夢の花 （後日談）

2010年10月9日15時35分発行